

鷲見城址研修について

令和6年6月15日(土)、快晴の空の下、高鷲文化財保護協会は今年初めての研修会を行いました。参加者は文化財保護協会の会員と郡上市教育委員会岩田学芸主事、高鷲振興事務所黒田課長と山川文化財担当職員及び TAKIMITA 会の会員、藤原頼保公奉賛会仲谷会長を始めとして会員が、合わせて12名の皆さんが参加されました(下記写真)。

研修会が始まる前に平井さんが鷲見神社のお供え物を用意してくださり、水上副会長のリュックに収め、二の丸にあります鷲見神社まで運びました。

最初に鷲見氏居館前の広場で、馬淵顧問(私)から資料についての説明があり、その後、今回の研修の大きな目的である鷲見城址の学術調査と草刈り用の器具を点検し、大手道三の門から上り始め本丸跡を目指しました。写真にもありますように今回は小学生の方も参加され、大変興味深く保護者の方と勉強に参加されました。



鷲見城址の石碑の前で記念撮影

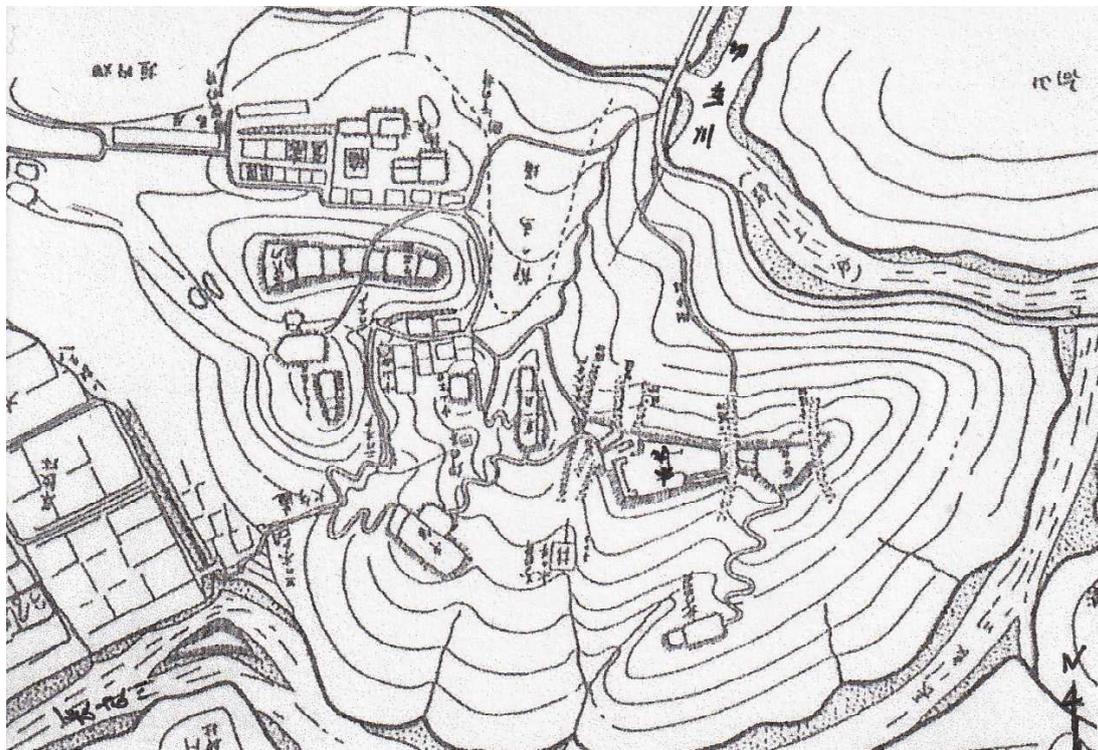
山城については、会報69号で述べましたように天守閣のある城は織田信長以降の平山城で、鷲見城は阿千葉城、篠脇城などは山城で、麓の居館と防御施設の山城とで構成された、砦のようなものであったと考えられます。

鷲見城は、鷲見氏が築造した城で、その創建年代にはいろいろの説があります。鷲見大鑑や濃北一覽に出てくる鷲退治で有名な藤原頼保が永暦年間に築城したという説、頼保の孫の家保が建長5年(1252)に築城したという説、さらにもう一説には承久の乱の頃、美濃国を舞台に戦闘が繰り広げられていたのでその頃に自衛のため築城されたという説がありますが、私(馬淵)は、承久の乱後の頃の説を支持します。

いずれにしても、築城された鷲見城は海拔650m、麓の居館跡から95mの城山山頂にあり、裏面の図の縄張り図のように北側が長良川、西側には切立川、東側



には八百僧谷川が流れ、東方の山脈は位山分水嶺に繋がり、南東側には鷲ヶ岳がそびえる天然の要害にあります。さらに城山の鷲見城は鷲見郷の向鷲見村、正ヶ洞村、中切村、穴洞村、鮎走村や飛騨街道の番所のあった植松峠から見え、麓には白山神社を置くなど聖域として位置づけていたと思います。(南)



鷲見城社縄張り図(林春樹作図) (北)

(鷲見神社)

本丸の西側に二の丸があります。そこに昭和 58 年に「鷲見氏の会」が山県市高富にあります鷲見神社から勧請して、鷲見神社を創建されました。

高富の鷲見神社は、文明 10 年(1478)に行保の子保重が郡上から北野城に進出し、その後 76 年間続いた。北野城主二代目の保定は一門の興隆を願って衣笠大権現を勧請して一族の守護神として鷲見神社を建立した。

二の丸にあります鷲見神社は、鷲見の会及び高鷲在住の故鷲見敏氏の人力で創建されたもので、神前に平井さんが事前準備してくださったお供え物をかざり、鷲見太加保さんがを代表してお参りをされました。

参拝後はお供え物のお下がりやを皆で分け合い、鷲見郷の租として守っている鷲見神社の神様に感謝しながら御相伴にあずかりました。



鷲見神社で参拝の準備をする参加者

(下山後の反省会)

12 時頃大手道を通って第三の木戸に着きました。その後、麓のサンサンハウスで食事(西協会長の差し入れ弁当)食べながら反省会を持ちました。主な意見は次の通りでした。

- ・本丸や二の丸・東丸の樹木が伸びすぎているので伐採をして見晴らしのきくようにして欲しい。
- ・本丸にベンチなど腰かけるところがあった方が良い。
- ・本丸と二の丸の間に道がある方が良い。
- ・本丸を発掘調査できないか。
- ・鷲見氏館跡の発掘調査ができないか。
- ・大鷲白山神社・鷲見城社・郡上谷のコースで観光地化できないか。
- ・今回の鷲見城研修会は大変勉強になり良かった。有難うございました。その他色々な意見が出ました。